

令和2年度

自己点検・評価書
(学校評価報告書)

大阪教育大学附属高等学校平野校舎

1 附属高等学校平野校舎の現況

(1) 学校名

大阪教育大学附属高等学校平野校舎

(2) 所在地

大阪市平野区流町 2-1-24

(3) 学級数・収容定員

9 学級 (1 学年 3 学級) 収容定員 360 人 (1 学級 40 人)

(4) 幼児・児童・生徒数

355 人 (男子 146 人・女子 209 人)

(5) 教職員数

校長(併任)1、校舎主任1、副校長1、主幹教諭1、教諭22(うち任期付教諭3)、養護教諭1、中学校併任教諭3、非常勤講師9、ALT2、事務補佐員5、用務員2人(うち併任1人)

2 附属高等学校平野校舎の特徴

1 学年 3 クラスの小規模校である特徴をいかし、生徒一人ひとりの個性を伸ばし、幅広い学力の向上、自主自立の精神の涵養に取り組む。文部科学省の「ワールド・ワイド・ラーニングコンソーシアム構築支援事業・拠点校」に指定され、国内外の高校や大学、関係機関と連携したカリキュラムとおして、多様性を尊重し、グローバルな課題解決に向けて行動するイノベティブなグローバルリーダーの育成に取り組んでいる。

3 附属高等学校平野校舎の役割

- (1) 大阪教育大学と連携し教育研究に取り組むとともに、平野五校園の共同研究を進める。
- (2) 本学の教育実習機関として実習生を受け入れ、適切な指導を行う。
- (3) 教育に関する理論を研究し、教育実践に役立てる。
- (4) 本学が行う現職教員の再教育の一端を担う。

4 附属高等学校平野校舎の学校教育目標

- (1) 学力の向上をめざす健全で創造性豊かな人格の育成
- (2) 国際的視野に立ち自他を敬愛する人格の育成

5 附属高等学校平野校舎の学校教育計画

○学校教育計画

各教科の確実な学習内容の定着と課題探究学習による実践的行動力の伸張を実現する教育課程を構築し、国内外の大学・高校等と連携しながら、「多様性を尊重し、グローバルな問題解決に向けて行動するイノベティブなグローバルリーダーの育成」に取り組む。

- 【1】小規模校の教育環境をいかした一人ひとりの生徒理解に基づく、教科指導、進路指導等の充実
(重点目標)

- (1) 小規模校の教育環境をいかした教科指導の充実と生徒の学力の向上

①授業研究と授業改善 ②生徒のニーズに応じた学習支援

(2) 生徒理解に基づくきめ細かな進路指導、生徒指導

①進路指導部を中心としたガイダンス機能の充実

②学年団や生徒指導部、スクールカウンセラー等を中心とした相談機能の充実

【2】SGH及びWWL拠点校のカリキュラムによる、社会的課題の創造的な解決力・実践的行動力の伸張

(重点目標)

(1) SGH及びWWL拠点校としてのカリキュラム開発

①学校設定科目のカリキュラム開発 ②海外研修旅行の充実

③大学と連携したプログラムの実施

(2) イノベティブなグローバル人材育成に関わる評価開発

(3) WWL事業のネットワークの構築と事業成果の発信

①ALネットワークの活動充実 ②事業成果の発信

【3】学校行事や部活動等をととした、自主・自立の精神の涵養

(重点目標)

(1) 学校行事の自主的運営の支援

生徒指導部を中心とした学校行事の支援

(2) 部活動の自主的運営の支援

生徒指導部及び部活動改革プランによる部活動の支援

【4】安心して学ぶ学習環境の充実、保護者・地域との連携

(重点目標)

(1) 安心して学ぶ学習環境の維持・向上

①生徒の学習環境の維持・向上 ②新型コロナウイルス感染防止対策を含む安全な学習環境の維持・向上

(2) 保護者・地域との連携

①保護者や地域への学校情報の提供 ②地域との連携

【5】大阪教育大学や平野地区附属五校園との連携・共同研究、部活動運営に関する将来検討

(重点目標)

(1) 大阪教育大学及び平野地区附属五校園との連携

①大阪教育大学との連携 ②平野地区五校園共同研究の推進

(2) 「運動部活動改革プラン」の推進と部活動運営に関する将来検討

運動部活動改革プランの取組と部活動運営の支援

6 附属高等学校平野校舎 令和2年度重点目標(評価項目)、具体的な取組内容(評価指標)・評価結果

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	おおむね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校教育目標	学力の向上をめざす健全で創造性豊かな人格の育成 国際的視野に立ち自他を敬愛する人格の育成
学校教育計画	各教科の確実な学習内容の定着と課題探究学習による実践的行動力の伸張を実現する教育課程を構築し、国内外の大学・高校等と連携しながら、「多様性を尊重し、グローバルな問題解決に向けて行動するイノベティブなグローバルリーダーの育成」に取り組む。 【1】小規模校の教育環境をいかした一人ひとりの生徒理解に基づく、教科指導、進路指導等の充実 【2】SGH及びWWL拠点校のカリキュラムによる、社会的課題の創造的な解決力・実践的行動力の伸張 【3】学校行事や部活動等をととした、自主・自立の精神の涵養 【4】安心して学ぶ学習環境の充実、保護者・地域との連携 【5】大阪教育大学や平野地区附属五校園との連携・共同研究、部活動運営に関する将来検討

【1】年度重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (＊評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1)小規模校の教育環境をいかした教科指導の充実と生徒の学力の向上	①授業研究と授業改善 ②生徒のニーズに応じた学習支援 ＊授業に対する生徒アンケートの肯定的意見 85%以上	①・生徒一人ひとりの深い理解を促す授業、探究的な学び(課題発見や論理的思考、発表等)を重視した授業、ICTを活用した授業について授業改善を進め、その成果を教科及び学校で共有した。 ・校内の情報端末機器を拡充させ、生徒及び教員の活用環境を整備した。 ②・休校期間中にオンライン授業を実施し、その間の生徒の学習状況並びにオンライン授業の効果と課題を検証した。 ・土曜や夏季休業中の授業実施による授業時数確保と、早朝・放課後等の補習や個別指導により、個々の生徒の学習ニーズに応じた。 ・生徒の学習状況の把握のため、学年団を中心とした学習相談・進	①・授業の相互観察や各教員の授業研究を進め、その成果の共有化を図った。 ・ICTを活用した授業実践並びに教員研修を進めた。 ②一人ひとりの生徒理解に基づく授業やクラス運営を行うとともに、相談しやすい環境づくりに努めた。	A	・生徒の主体的な活動やグループでの協働が組み入れられ、生徒の意欲を高めようと工夫している。 ・個々の学習ニーズに応じた授業や指導が積極的に行われており、継続していくとよい。	A	・生徒が授業内容に高い興味・関心をもち続けるよう、教員が研究と授業改善に取り組む。 ・教員間の授業観察と授業研究を継続させて行う。また、ICTを活用した授業事例を教員間で共有する。

		路相談を実施した。 * 生徒アンケートの結果「教員は授業を工夫している」86% 「自分の考えをまとめたり発表したりする機会がある」89% 「補習や土曜補充授業を通して授業充実を図っている」87%					
(2) 生徒理解に基づくきめ細かな進路指導、生徒指導	① 進路研究部を中心としたガイダンス機能の充実 * 進路指導に対する生徒アンケートの肯定的意見 85%以上 ② 学年団や生徒指導部、スクールカウンセラー等を中心とした相談機能の充実	① 各学年に対する進路ガイダンスの内容をそれぞれ精査しながら実施した。卒業生等による進路ガイダンスの回数を増やし昨年度より充実させた。 * 生徒アンケートの結果「学校では進路について考える機会がある」89% ② 学年団による情報交換や打合せを綿密に行い、全教員による生徒の状況理解に努めるほか、定期的な相談や懇談の場を設けた。また、スクールカウンセラーによる相談体制を継続して整備した。	① 進路指導部と学年進路係を中心にガイダンス内容を見直し、充実を図った。 ② 生徒理解に関わる教員研修を実施した。	A	・保護者への進路指導情報の提供を一層充実させる。	A	・各学年での進路指導やガイダンスの内容を点検・改善する。 ・校内の相談・支援体制(組織)を見直し、充実を図る。

【2】年度重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (* 評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1) SGH、WWL 拠点校としてのカリキュラム開発	① 学校設定科目のカリキュラム開発 ② 海外研修旅行の充実 * 研修旅行の生徒満足度 90%以上 ③ 大学と連携したプログラムの実施	① ・「総合的な探究の時間」を利用した1年「グローバル探究Ⅰ」では WWL への移行に伴う年間カリキュラムの見直しを行い、計画通り実施した。また、2年の課題研究では、全員が研究に組み、複数のチーム等が、全国規模の発表会で成果を上げた。 ・「データサイエンス基礎」、「生命の倫理」を計画通り実施した。 ② タイ、カンボジア、ニュージーランドでの研修は中止・延期となったが、代替として、ニュージーランド及び台湾の各連携校、また、カンボジアの NPO とのディスカッションや交流を、それぞれオンライン行った。 * 代替プログラム参加生徒の満足度 93% ③ ・大阪教育大学の留学生との共同学習「多文化理解講座」(1年)を実施した。また、昼休みを利用した上記留学生とのオンライン会話「Lunch Time Chat」(希望者)を実施した(76名参加)。 * 生徒アンケートの結果「活動に積極的に参加した」96% 「英語学習の意欲が高まった」96% ・希望者が大学の授業を受講した(大阪大学10名、大阪教育大学4名)。	① 1年では、単位数減に伴い授業内容の精選を行った。 ② オンラインプログラムは相手校・機関と事前連絡を十分に行い、実施した。 ③ 「Lunch Time Chat」は本年度初めて実施するが、通信機器等の事前の環境整備に注力した。	A	・課題研究では、多様性理解やチームビルディング等の学習が組み入れられ、貴重な学習機会になっている。 ・海外研修の代替プログラムが充実している。 ・「多文化理解講座」や「Lunch Time Chat」は、各国の理解と英語学習への意欲喚起になっている。	A	・本年度の成果と課題を明確にし、課題研究の指導についてさらに改善していく。 ・調査研究の方法・作法について、指導内容を充実させる。 ・オンラインを活用した海外校や海外機関との学習について、オンラインの良さをいたした工夫・改善を行う。

(2)イノベティブなグローバル人材育成に関わる評価開発	イノベティブなグローバル人材育成に関わる評価開発	大阪教育大学と協働し、全学年の PROG 調査の結果分析を行うほか、イノベティブなグローバル人材に関わる評価指標の設定とその調査結果の分析を行った。		B	・WWL1年目であり。次年度以降も継続した研究を期待する。	A	・大学と連携し調査等を継続する。
(3)WWL 事業のネットワークの構築と事業成果の発信	①AL ネットワークの活動充実 ②事業成果の発信	①近畿圏国立大学附属高校、中等教育学校6校と連携し、課題研究の合同発表会を開催した。生徒が相互に交流することができた。 ②11月に全国教育関係者対象の研修会(オンライン)を開催し、本校での授業実践を発表した。オンラインのため、例年のような参加者間の情報交換がしにくかった。 *参加者のアンケート「今回の発表は勤務校等で役立つ」100% 「次回もこのような発表を聞きたい」100%	②対面研修をオンライン研修に変更し、実施した。	C	・6校による発表会では、多様なテーマでの充実した発表が続いた。 ・研修会の内容は学校現場のニーズでもあり、継続するとよい。	B	・6校との連携を深め、高校生が主体となって来年度実施する高校生国際会議を運営していく。 ・来年度も教員研修会を実施する。

【3】年度重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (※評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1)学校行事の自主的運営の支援	生徒指導部を中心とした学校行事の支援 *学校行事に対する生徒アンケートの肯定的意見85%以上	生徒が主体となって感染防止対策と行事運営のプランを作成し、学校と協議しながら、体育祭・文化祭が実施された。 *生徒アンケートの結果「学校は、学校行事や部活動などを通して生徒の活動が活発になるようにしている」89%	感染拡大状況に応じた生徒の行事検討をサポートした。	A	体育祭・文化祭では全て生徒が運営しており、よかった。	A	生徒が主体的に企画運営できるようサポートを行う。
(2)部活動の自主的運営の支援	生徒指導部及び部活動改革プランによる部活動の支援	部長会での連絡により、部活動の円滑な運営を支援した。また、運動部活動改革プランの取組の一環として、休日等においても活動しやすい環境を整えた。	部活動改革プランによる支援プログラムも導入しながらサポートした。	A	部活動の活性化に向けた支援を継続してほしい。	A	引き続き、生徒が主体的に活動しやすい環境整備や支援を行う。

【4】年度重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (※評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1)安心して学ぶ学習環境の維持・向上	①生徒の学習環境の維持・向上 ②新型コロナウイルス感染対策を含む安全な学習環境の維持・向上	①校内のネット環境、情報端末の整備が完了し、生徒がICTを活用して学習できる環境づくりを行った。また、スクールロッカーの整備や庭園の改修など、生活環境の改善も進めた。 ②・感染防止対策として、教育活動や学校行事の見直し、全ての教室やトイレ壁面等の抗菌処理施工、教室の換気機器や柔道場の空調機の新設、更衣場所増設等を行い、安全な環境づくりに努めた。	中学と連携し、保護者の協力も得ながら進めることができた。	A	地域や関係機関との連携を図りながら安全対策が講じられている。	A	継続して、老朽化した施設設備の点検・修理、学習環境の向上、防犯等の警備体制の強化等に取り組む。

		・グラウンド施設の改修、不審者への警備体制の強化を図った *生徒、保護者アンケート「学校の施設・設備は事故防止・安全面で満足できる」生徒 88%、保護者 92%					
(2)保護者・地域との連携	①保護者や地域への学校情報の提供 ②地域との連携	①保護者への文書や一斉メール配信、ホームページによる情報提供に努めた。 ②地域と平野五校園との連絡協議会、並びに、平野五校園連合会による「ひらの BOSAI キャンパバン」は、感染拡大の影響で実施できなかった。	学校の取組をまとめた動画やパンフレットを新しく作成した。	B	より積極的な情報発信が望まれる。	B	・学校の情報発信をさらに積極的に行う。 ・地域との連携関係を維持しながら、学校運営に取り組む。

【5】年度重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (* 評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1)大阪教育大学及び平野地区附属五校園との連携	①大阪教育大学との連携 ②平野地区五校園共同研究の推進	①・WWL 事業及び平野五校園共同研究等について、大学と協働し計画通り実施した。 ・連合教職大学院院生の実習受け入れ及び教育実習(五校園連携型実習も含む)等を計画通り実施した。 ②平成 30 年度から進める「主体性育成のための評価指標の作成と活用の研究」の最終年度として、3 年間の成果をコモン・リリックにまとめ、報告書とともに全国の教育機関に送付した。	①大学とオンライン会議を通して、緊密な連携を図った。 ②各校園でのコモンリリックの活用事例を共有し、報告書にまとめた。	B	今後も、大学や平野五校園と連携し、教育活動や研究活動を進めることが重要である。	B	・次年度も大学と連携しながら取組を進める。 ・引き続き新しいテーマのもとで五校園共同研究を推進し、附属学校の役割を果たす。
(2)「運動部活動改革プラン」の推進と部活動運営に関する将来検討	運動部活動改革プランの取組と部活動運営の支援	・平成 30 年度、令和元年度に続き、スポーツ庁の「運動部活動改革プラン」の実践校に採択され、令和5年度以降の休日部活動の運営について検討し、地域等と連携したスポーツプログラムを実施した。 ・地域等と連携した総合型地域スポーツクラブが3月に設立され、今後の休日の部活動運営に資する取組を開始した。	・3 年間の取組をもとに、総合型地域スポーツクラブの設立に向けた取組を進めた。	A	教員の働き方改革に資する仕組みづくりの先行事例となる。	A	・次年度以降、具体の取組を実施していく。